2011 日本自動車殿堂 歴史車

JAHFA JAPAN AUTOMOTIVE HALL OF FAME 2011 Historic Car of Japan

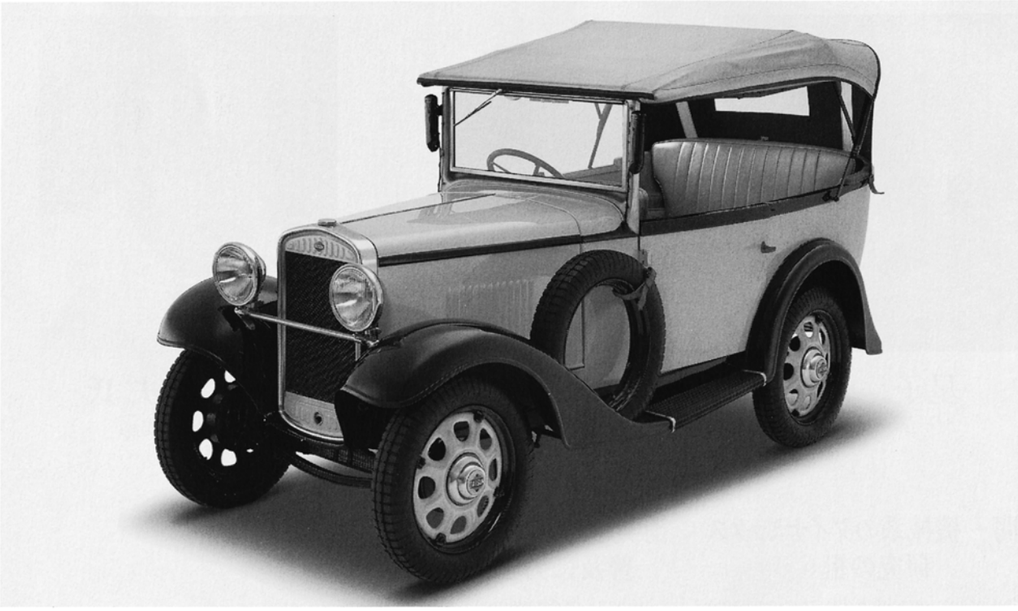
日本の自動車の歴史に優れた足跡を残した名車を選定し
日本自動車殿堂に登録して永く伝承します

Cars that blazed the trail in the history of Japanese automobiles are selected, registered at the Hall of Fame and are to be widely conveyed to the next generation.

ダットサン12型フェートン

DATSUN 12 PHAETON

ダットサン　DATSUN



ダットサン 12 型フェートン。ダットサンは、戦前の国産小型乗用車で最も多く製造された

ダットサンの沿革

1911年 4月	橋本増治郎、快進社自働社工場を創業
1912年 —	快進社、第1号設計車（4輪ガソリン乗用車）試作に失敗
1914年 3月	快進社、第2号車にボディ架装、ダット（DAT）自動車と命名
1922年 3月	快進社、上野公園の東京平和記念博覧会にダット41型を出品し、東京府から金牌を受与
1931年 6月	ダット自動車製造（株）、戸畑鋳物の傘下に
8月	ダット自動車製造（株）、新小型車の生産第1号車を完成
1932年 3月	ダットソンをダットサンに車名変更
1933年11月	ダットサン車を大改良、エンジン495ccから747ccに引き上げる
1934年 7月	ダットサン13型（1934年型）発表
1935年 2月	ダットサン14型（1935年型）発表

ダットサン 12 型フェートン（1932 年）主要諸元

全長	2,710mm
全幅	1,175mm
全高	ー
ホイールベース	1,880mm
トレッド	965mm
車両重量	400kg
乗車定員	4名
最高速度	65km/h
最小回転半径	3.8m
登坂能力	ー
タイヤサイズ	ー

エンジン	水冷4サイクル
型式	側弁式（SV）直列4気筒
ボア×ストローク	54mm×54mm
総排気量	495cc
圧縮比	5.0
最高出力	10ps／3700rpm
最大トルク	ー
燃料消費率	ー

変速機	前進3段　後進1段
始動	ー
燃料タンク	ー
生産台数	ー
価格	フェートン 1,350円（大阪渡し）

※ダットサン12型の諸元データ及び沿革は「日産自動車三十年史」（1965年12月26日発行）を主資料として作成

■小型車の代名詞として親しまれたダットサン

ダットサンのルーツとなる「快進社自働車工場」は、今からちょうど100年前の1911年（明治44年）、橋本増治郎によって設立された。

「自動車は多分に手工仕事を要する事、製品全体は目方に対し高価なる事、（中略）即ち小さき部分品を集めた高価品なるが故、我日本の工業として適当と認めた…橋本増治郎（1935年）」

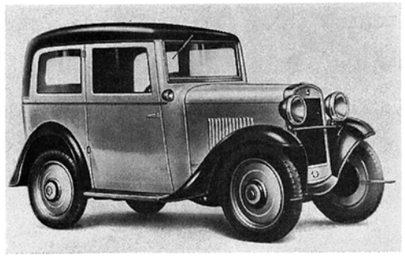
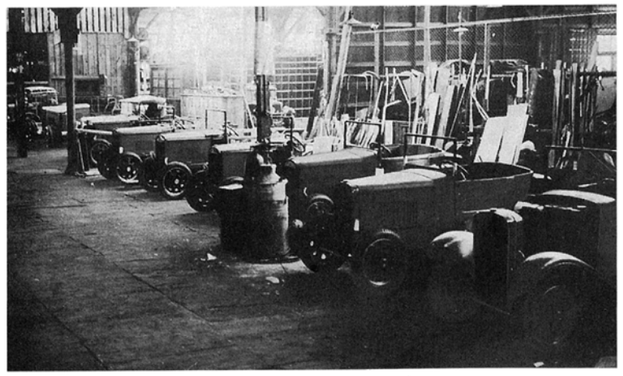
しかし当時の日本では自動車の保有台数が250台足らずであり、自動車の需要も市場規模も小さく、また技術的な面からも自動車製造はきわめて困難な状況であった。このような実情の中で、快進社自働車工場は、橋本増治郎、田健次郎、青山禄郎、竹内明太郎が出資した資金により、町工場といった規模でスタートしたのである。

そして橋本増治郎設計のダット（DAT）号が完成したのは、1912年の事であった。だがこの第1号車は失敗に終わり、次作となったダット号の2号車で1914年の大正博覧会に出品して銅牌を受賞した。このDATという名称は快進社設立の恩人、田、青山、竹内各氏の頭文字に由来するものであるという。

その後1921年ごろにはダット41型乗用車を完成し、東京平和記念博覧会で当時の東京府から金牌を授与された。だがこうした栄誉を与えられたにもかかわらず、国内では、米国からの安価な輸入車に対抗する事は非常に厳しい状況であり、快進社は解散されダット自動車商会となる。そして1926年には大阪の実用自動車製造と合併し、ダット自動車製造となり1930年に1号試作車が完成。そして、1931年（昭和6年）には、自動車の工業に進出した鮎川義介の戸畑鋳物の傘下となるのであった。同年、技師長後藤敬義によって、ダットの「息子」を示す意味の小型四輪車のダットソンが完成するが、翌年の1932年には、「ソン」は損につながるという理由によって太陽を示す、「サン」に変更され、ダットサンの名称が確立したのである。

小型で耐久性の高いダットサンは、戦前では日本の小型車の代名詞となり、戦後は日産自動車の米国などへの海外進出のブランド名としても使用されるなど、長きにわたって日産車を代表するクルマとして、広く国民に親しまれたのである。（小林謙一）

ダットソン時代のカタログ
めずらしいダット自動車製造のカタログで、車名は“ダットソン号”であり“運転手免許不要”の時代であった



ダットサン12型セダンとダットサンの工場（1933年頃）
小排気量にもかかわらず、本格的な4サイクル水冷4気筒を採用したエンジンは、頑丈で高耐久性であり、当時の2サイクルエンジンを搭載していた三輪自動車などに比べて、ダットサンの信頼性は高かった